



第18回静岡大学技術報告会にあたって

著者	伊東 幸宏
雑誌名	技術報告
巻	18
ページ	none-none
発行年	2013-03-12
出版者	静岡大学技術部
URL	http://doi.org/10.14945/00007121

巻頭言

第18回 静岡大学技術報告会にあたって

静岡大学長 伊東幸宏

この技術報告会は、平成6年度に技術職員の組織化のために各部局に技術部が設置されたのを機に、平成7年の第1回から第3回まではそれぞれの技術の発表の場として東西別々に開催していましたが、第4回からは合同で開催するようになり今回第18回を迎えました。さらに今回は、全学の統一の組織としての静岡大学技術部が発足して第1回目となります、そして今回も他大学の参加も得て開かれた報告会となっており、参加者は発表者、聴講者合わせて50名あまりになっています。



大学に置ける技術部の役割は法人化も含めて進行している大学改革の流れの中で増々重要度を増してきています。大学の基本的機能は、教育と研究そしてその成果を社会に生かしていくことつまり社会貢献です。さらにこの三つの機能を効率的かつ機能的に発揮できるような大学運営が求められています。技術職員も大学の一員であり基本的には教員と全く同じく、教育、研究、社会貢献、大学運営に関する責務を負っています。

中でも教育に関する責務は非常に重要です、大学は基本的に教育機関であり、その構成員は教員だけではなく職員にあっても教育職であると自覚するべきであり、とりわけ技術職員は学生と直接ふれあう機会が多く、学生に大きな影響を及ぼすポジションにいると思っています。研究の支援業務でも学生と触れ合う機会も多いことから、日頃の業務を通してより多くの学生の質の高い学びを支援していただきたいと思います。

それからもう一つ技術職員の皆様に期待する役割として、最先端の設備、機器などの維持・管理・活用・支援です。これらは大学の設備、機器であり国の予算で整備した国民の財産ですから、大学の教育研究に活用することはもちろんですが、地域の財産としても地域に開いていくべきでありそのための支援を技術職員に多いに期待しているところです。大学の円滑の運営のためにも技術的支援も重要度が増してきています。

また、大学の業務は、多くの情報システムに支えられています、それらの情報システムを最適に稼働させ、今後さらに洗練させることが必要です。そのためには高い技術を有する技術職員の支援が不可欠です。このような期待に答えるべく一人一人が自分の技術を高めるだけでなく、技術や情報を共有していくことが重要だと思います。技術や情報を共有することによって組織全体の技術力を高めることができると考えます。そしてこの技術報告会は技術や情報の共有のための有効な機会の一つと認識しております。

技術部は一つの組織となりましたが、普段は静岡キャンパス、浜松キャンパスに離れて仕事をしておりますので、このような機会に人的交流も深めていただきたいと思います。ともに切磋琢磨できる仲間を増やし、高い意識を持った技術職員、教員、事務職員が三位一体となってより良い大学を作っていきたいと思っております。

いま、大学で **FD** はフロッピーディスクとと思っている人は居ないでしょう、**faculty developer** ですが、**SD** と言うとカメラの中に入れるカードを思い浮かべますが **SD(staff development)**とは、大学等の管理運営組織が目的、目標の達成に向けて十分機能するよう管理運営や教育研究支援に係る事務職員、技術職員またはその支援組織の資質向上のために実施させる研修などの取り組みの総称とされています。今回の技術報告会も **SD** の一環でもあると思っております。またこの中で今回 **SD** を取り上げた報告もあると聞いており、大変有りがたくまたうれしく思っております。今回の技術報告会が **SD** 活動の一つの具現化の場となってこの報告会が実り多いものとなりますことを願っています。